

令和3年 10月26日

令和2年7月豪雨災害 コロナ禍での避難所運営

田舎の体験交流館「さんがうら」
指定緊急避難所運営について
発表者：さんがうら施設長 小川 聡

自己紹介

田舎の体験交流館さんがうら施設長 小川 聡(おがわ さとし) 46歳

友達が少なかった子供時代…山や川で一人ぼっちで遊ぶ。
やってきたスポーツ…陸上(長距離)・拳法 個人競技ばかりで運動能力は平均以下。
通信簿…5教科はオール5、技術・音楽・家庭科等の実技科目はオール2、たまに1もあり。
陰キャに見えて実は陽キャな私。

子供の頃から都会に強い憧れを抱き、18歳の時に熊本市へ。
大学卒業後、花の都大東京を目指し、就職も決めずに上京。
東京で作家になりたくて活動していたはずが、10年間警備会社で働く。

故郷は大好きだったので年に3回は帰省していた。(青春18きっぷ:各駅停車にて)
JR肥薩線で渡に帰ってきた時の風景はいつ見ても美しく感動的。
帰省中は人吉球磨をドライブして回るのが日課。やはり故郷が大好き。

鳴かず飛ばずの生活を送るうち、父と母が退職。長男だった私は、地元へ帰ることを決意。33歳。
帰ってきてからは「おくりびと」をしていたが、ある時「さんがうら」職員の募集を見て、これだ!と直感的に感じる。

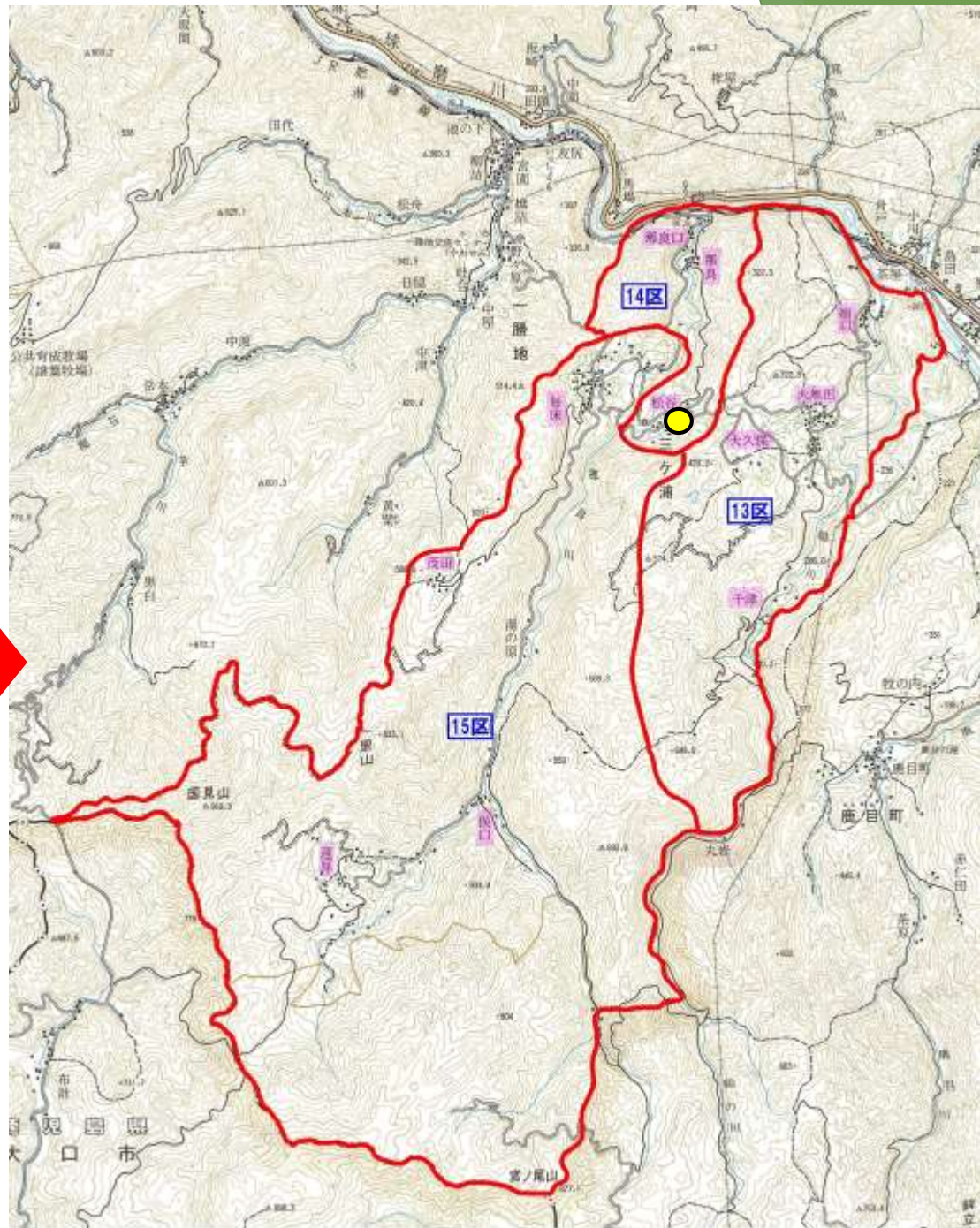
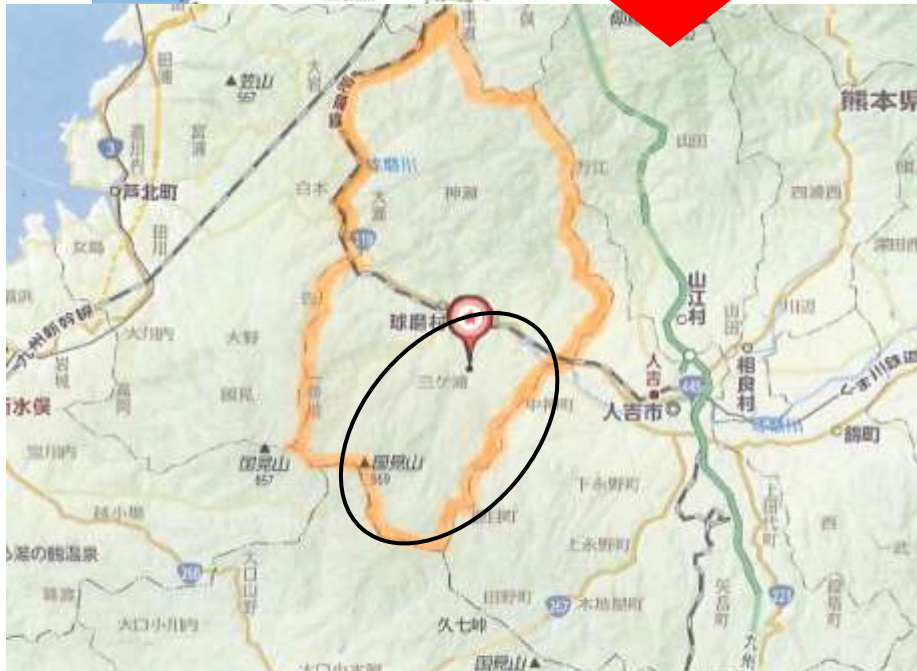
大好きな故郷のために何かしようと、この仕事を始めたのがきっかけ。36歳。

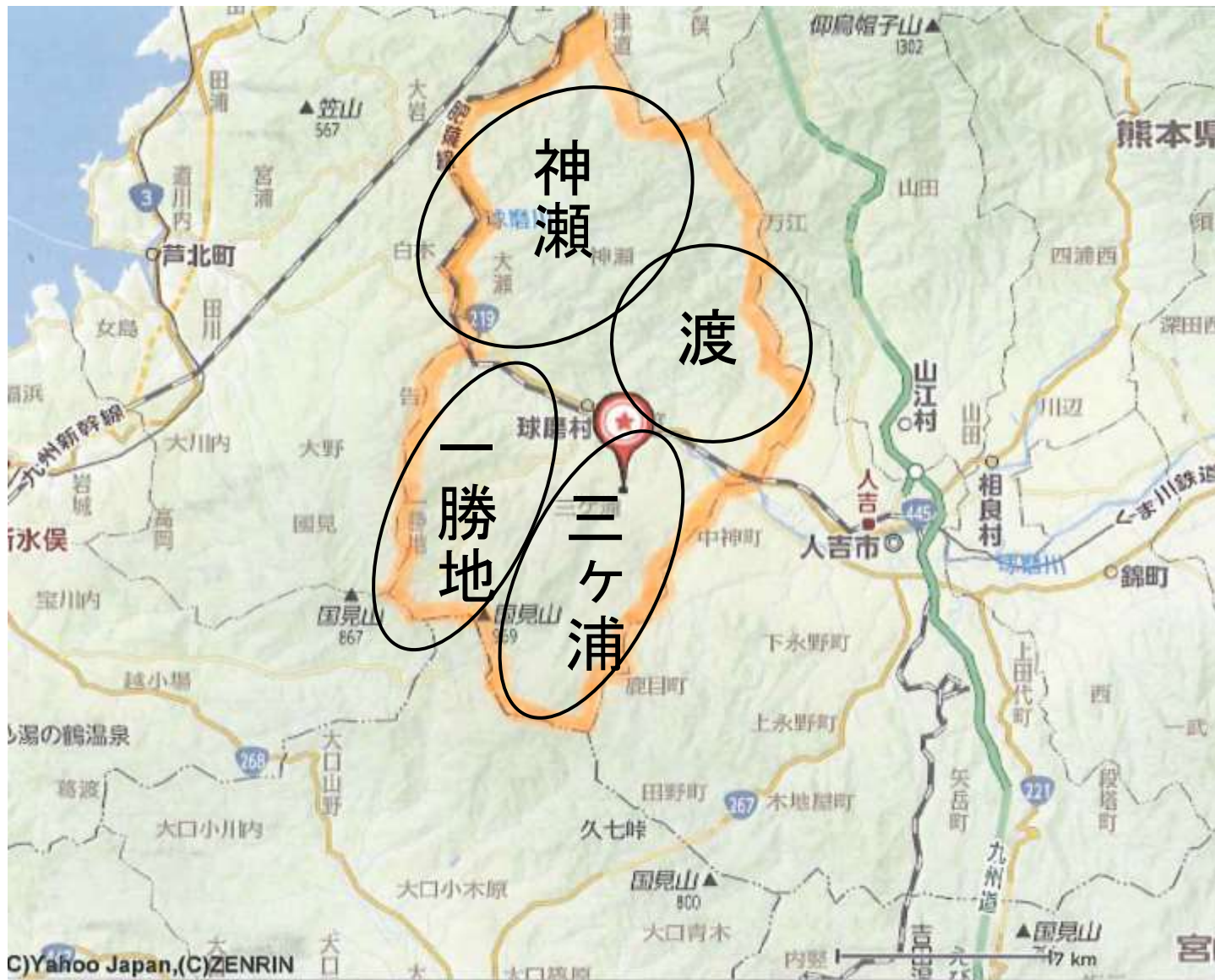
ここから私の物語は始まる。

7/4豪雨災害以降、2か月で9kg体重減。
この際と思い、トレーニング開始。8か月で
81kg→56kg(-25kg)の減量に成功。
病気だと思われ、労わられることも多い。
痩せたのでちょっとカッコつけて腕組してみました。



位置：球磨村・三ヶ浦地域





**球磨村に
隣接する市町村**

鹿児島県伊佐市

熊本県 八代市

水俣市

人吉市

芦北郡 芦北町

球磨郡 山江村

マップコード: **MAPCODE** 195 784 569*11 緯度経度:北緯32度13分30.83秒 東経130度39分51.38秒

熊本県球磨郡球磨村三ヶ浦(大字)松谷

📍 = 田舎の体験交流館さんがうら

熊本県球磨郡球磨村（くまむら）

◆位置

熊本県の南部に位置し、昭和29年に神瀬村（こうのせ）一勝地村（いっしょうち）、渡村（わたり）、の3か村が合併し球磨村となる。東西13.5 km、南北25 km、面積207.7 km²、88%が山林で、村全体が山岳地帯。村の中央を球磨川が横切っており、大小無数の谷川が注いでいる。その谷川沿いに79の集落と多くの棚田が点在している。主な産業は林業と農業。60以上の集落が、主な居住者の名字と一致する。

三ヶ浦地区 1 1 集落

球磨川左岸に位置する。中山間地の集落で隣接集落は無い。



日本の棚田百選「松谷棚田」 最上段に「さんがうら」



「さんがうら」利用者の主な目的

- ◆さんがうら開催行事への参加
- ◆農林業体験・食の加工体験・野外活動体験
- ◆保育園・学校・子ども会等の集団宿泊
- ◆部活動（サークル）合宿・学習会・ゼミ合宿
- ◆企業団体の会議・研修・総会
- ◆宿泊（観光・帰省・仕事等）
- ◆同級会・会食・食事会
- ◆視察研修
- ◆役場各部署関連公務
- ◆地区行事
- ◆消防団訓練・防災訓練・青年団活動・老人会活動

「さんがうら」の主な取り組み内容

① 宿泊業

② 飲食店業

③ 農林業体験の企画・開催

④ 食の加工体験の企画・開催

⑤ 自然体験活動の提供・企画・開催

⑥ 様々な活動の場として

⑦ 棚田再生と棚田資源の観光化

⑧ 物産品や特産品の開発・販売

⑨ 地域資源の発掘・記録収集・情報発信

⑩ 総菜製造業・菓子製造業・移動販売業

⑪ 集落支援・生活支援・コミュニティ支援

①～⑥ 来館者のニーズに合わせた都市農村交流等の取り組み

⑦～⑪ 地域の再生や支援等、集落活性化への取り組み

令和2年7月4日

未曾有の豪雨災害

球磨川が氾濫（支流も全て氾濫）…
家屋浸水・流出・倒壊、土砂流入
橋の流出、道路崩壊、山腹崩壊
ライフライン断絶、集落孤立

被害概要

※球磨村の住民説明用資料より抜粋

●インフラ等被害 (令和2年8月31日時点)

村道...30路線 166ヶ所

橋梁...8橋梁

河川...17河川 67ヶ所

林道...22路線 133ヶ所

農地...810ヶ所 90ヘクタール

農業用施設...207ヶ所

●建物被害 (令和2年9月28日時点)

全壊...339 大規模半壊...31 半壊...60 準半壊...1 一部損壊...41

●人的被害

死者...25名 行方不明...0名

球磨村の被害状況（被災当時）

被害状況 三ヶ浦地区 県道遠原渡線



被災直後
球磨村三ヶ浦 県道遠原渡線
道路崩壊・集落孤立

写真：球磨村Facebookページより

被害状況 三ヶ浦地区 鵜口集落



写真：球磨村Facebookページより

被害状況 一勝地地区 宮園集落

被災直後
球磨村一勝地・宮園



写真：球磨村Facebookページより

被災直後
球磨村一勝地・宮園
淵田酒造前

被害状況 一勝地地区 球磨橋



写真：球磨村Facebookページより

被害状況 球泉洞付近



写真：球磨村Facebookページより

被害状況 渡地区 糸原集落



被災直後
球磨村渡・糸原地区
小川川の氾濫
地区に架かる橋の流出

写真：球磨村Facebookページより



令和2年7月豪雨
球磨村渡・糸原地区
小川川の氾濫
橋がダムのようにになっている

被害状況 渡地区 糸原集落



写真：球磨村Facebookページより



令和2年7月豪雨
球磨村渡・糸原地区
橋の流出・道路崩壊により孤立

被害状況 神瀬地区

写真：球磨村Facebookページより



被災直後
球磨村・神瀬地区
国道崩落



被災直後
山から大量の土砂が流入

被害状況 神瀬地区 川内川



写真：球磨村Facebookページより



被害状況 神瀬地区

写真：球磨村Facebookページより



被災直後
球磨村・神瀬地区
神瀬橋流出



被害状況 大瀬地区



写真：球磨村Facebookページより



被害状況

渡地区 国道219

写真：球磨村Facebookページより

被災直後
球磨村渡・椎屋入口付近
国道崩落



被災直後
国道219号線
那良口洞門前

被害状況 渡地区 国道219 馬場下

写真：球磨村Facebookページより

被災直後
球磨村・馬場下
国道219号線崩落



被災直後
球磨村・馬場下
国道219号線崩落

被害状況 渡地区 国道219 馬場下～一勝地（球磨橋）間

写真：球磨村Facebookページより



被害状況 一勝地地区 JRガード下



写真：球磨村Facebookページより

被害状況 相良橋 崩落

写真：球磨村消防団 第五分団



被害状況 渡地区平野部 水没

写真：球磨村消防団 第五分団



被害状況 人吉市 大柿地区方面を見る

写真：球磨村消防団 第五分団



被災前の球磨村がやってきたこと

- 球磨川タイムラインの策定（避難要領等）
- 地域防災会議の開設（年数回の会議）
- 集落ごとの防災組織の設立（自主防災）
- 各集落で定期的な避難訓練を実施

→これでもまだ足りなかった。

球磨川について

- ・ 地域の人には球磨川を「暴れ川」とは言わない
- ・ 球磨川を悪く言う人はいない

「暴れ川」はメディアが報道しだしてから定着したものの言葉に出しては言わないが、住民は球磨川を愛し、誇りに思っています。

被災後の三ヶ浦地域の状況

①被災箇所が山間部の広範囲に広がった

家屋浸水・農地被害・用水路崩壊が多数発生

②交通アクセス断絶（国道・県道・村道・林道の崩落）

ライフライン断絶、通信手段途絶 → 完全孤立

③欲しかったボランティア

コロナの影響により、ボランティアの受け入れは県内からのみ

メディアの報道が球磨川流域の水害被害に集中したため、山間部の被害が周知されなかった

①被災箇所が山間部の広範囲に広がった

家屋浸水・農地被害・用水路崩壊が多数発生

家屋浸水について・・・

球磨川の氾濫による浸水被害については13件（三ヶ浦地域は、11集落196軒）
三ヶ浦地域は山間部の集落のため、球磨川近くの家屋が被災している。

農地被害、用水路崩壊について・・・

出荷直前の一勝地梨、田植え後の水田など、農村の生活は大打撃を受けたが、
農家さんが力を合わせて補修し、出荷道の整備も進んで行ってきた。

山間部では、山からの出水による家屋被害、浸水も多く発生した。

しかし、**球磨川の氾濫による被害以外では、被災証明・罹災証明は発行されなかった。**

②交通アクセス断絶（国道・県道・村道・林道の崩落） ライフライン断絶、通信手段途絶 → 完全孤立

隣接集落がないことが孤立した最大の要因

孤立が解消されるまで、球磨村の状況を知らなかった人も大勢いた。
このままでは生死に関わるため、住民総出で作業を行ってきた。
自衛隊が来るようになって、作業が進み孤立が解消された。



落橋と孤立、山間地の道路分断 ライフライン断絶 独居老人世帯・高齢者には生活を続ける術がなかった



相良橋流失。すぐ目の前には渡地区。
ここが通れば人吉市まで10分なの
に...
(令和3年5月21日仮橋にて復旧)



沖鶴橋流失。落ちるはずがない
と誰もが思っていた橋でさえ、
流されてしまった。
復旧は4年近くかかる見込み。



山間部の至る所で道路崩壊が。
今回の豪雨は洪水被害ばかりでは
なく、山間部の地形や水流、川の
流れさえ大きく変えた。



球磨橋。これだけでも残っ
てくれて救われた。

球磨川で流出を逃れた橋は、一勝地に架かる「球磨橋」のみ。
しかし、一勝地までの道も崩落しアクセスが断絶。
地域で重要な役割を果たしていた「相良橋」の流出、球磨村民の誰もが信じられなかった「沖鶴橋」の
流出により、三ヶ浦地域は完全に孤立。

一勝地までのアクセスが改善され、孤立が解消するまでに約2週間を要した。
この災害で、球磨村には商店は全て無くなった。(渡地区のローソンのみ後日復旧)

③欲しかったボランティア

- コロナの影響により、ボランティアの受け入れは県内からのみ**

→球磨村は人吉市と共同でボランティアセンターを人吉市に設置。

県内のみ受け入れは地元医師会の要請もあり。

- 球磨川に架かる橋の流出（孤立）により、ボランティアが早期に来れなかった**

→災害ボランティアが入って来れたのは、被災後1か月ほどしてから。

→渡地域は早めのボランティア受け入れが出来て復旧が進んだ。

国道が分断された神瀬（こうのせ）地域では復旧が大幅に遅れた。

- メディアの報道が球磨川流域の水害被害に集中したため、山間部の被害が周知されなかった**

→三ヶ浦地域が被災したことを知らない人吉球磨の人も多いので当然。

情報発信の際の文言によってはクレームが来ることもあった。

コロナ禍でのボランティアの難しさ（ボラセンの声）

- 検温等に時間がかかり、長蛇の列になった。
- そのため、熱中症で具合を悪くするボランティアも多かった。
- 参加者を振り分けてバスで送迎するのが昼前。
午後3時頃には送り出しをしないといけないので、作業時間が
実質3～4時間しか取れないことも多かった。

ボランティアについての住民の思い

非常に助かったとの声が多い反面、マナーが悪いボラに悪い印象を持った村民も。
話を聞くと、本当に被災者の気持ちになって作業をしていたのか疑問に思うことも多かった。
(行政批判・地区の資源を無断使用・作業時に陽気な音楽を大音量でかける...など)

作業に入るボラの質によってかなり印象が変わっている。
しかし、ボラなくしては復興は進まないため、もっと来てほしいという声の方が多かった。

ボランティア参加人数（令和3年10月19日時点）

※全社協被災地復興ボランティアセンター活動実績一覧より抜粋

●球磨村	：	1,	155人
●人吉市	：	19,	113人
●相良村	：	1,	149人
●山江村	：		310人
●錦町	：		68人
●多良木町	：		56人
●あさぎり町	：		254人
●八代市	：	8,	742人
●芦北町	：	7,	143人
●津奈木町	：		258人

球磨村は人吉市と合同で、
7/10にボラセンを開設。

比率的に
熊本地震の時の3分の1の
ボランティア参加数といわれる

田舎の体験交流館さんがうら 避難所運営開始

7月3日、17時に指定緊急避難所開設・・・避難者0名
(さんがうら施設長、役場職員2名の計3名が当直にあたる)

7月4日、3時過ぎに次々と避難者が集まり始めた。

球磨川にかかる橋の流出、道路崩壊等により、交通アクセスが断絶。
人員・物資の輸送に大きな影響が出る。
孤立集落が続出、避難所へのアクセスも難しい状況に。
このため、さんがうらへの避難者も最大で34名に留まる。
さんがうらに備蓄していた食材を使用し、炊き出しを行う。

7月5日、自衛隊がヘリで物資を輸送開始。

7月8日、球磨村千津集落～人吉市鹿目町の林道が復旧（地元民で整備）
自衛隊の三ヶ浦担当部隊が、さんがうらに到着。
自衛隊・県警・消防団とともに住民の安否確認を開始（約2週間）

7月14日、**さんがうら避難所1人体制に移行**（開始時6名体制、10日より3名体制）

8月5日、移動販売再開。支援物資の配布、独居老人の見守り・安否確認・情報収集

9月7日、さんがうら避難所閉所（最後は台風10号避難所として。避難者66名）

さんがうら避難所 運営体制

7月3日、さんがうら施設長、役場職員2名の計3名が当直にあたる

7月4日、被災。孤立状態の時には三ヶ浦地域の役場職員全員が集合（12名）
※消防団活動との並行活動のため、約半数が避難所当番にあたる。

7月8日、球磨村千津集落～人吉市鹿目町の林道が復旧（地元民で整備）
避難者減少に伴い、役場職員は被災証明・罹災証明のため現場へと配置転換
（さんがうら施設長、役場職員3～4名体制へ）

7月10日、さんがうら施設長、役場職員2名の計3名体制へ

7月14日、さんがうら避難所1人体制に移行（昼間・夜間ともさんがうら施設長1名体制）

※ 避難時に機能できなかった「さんがうら運営委員会」

さんがうらの運営母体・・・田舎の体験交流館さんがうら運営委員会

地域の区長、班長、女性代表らで構成される。

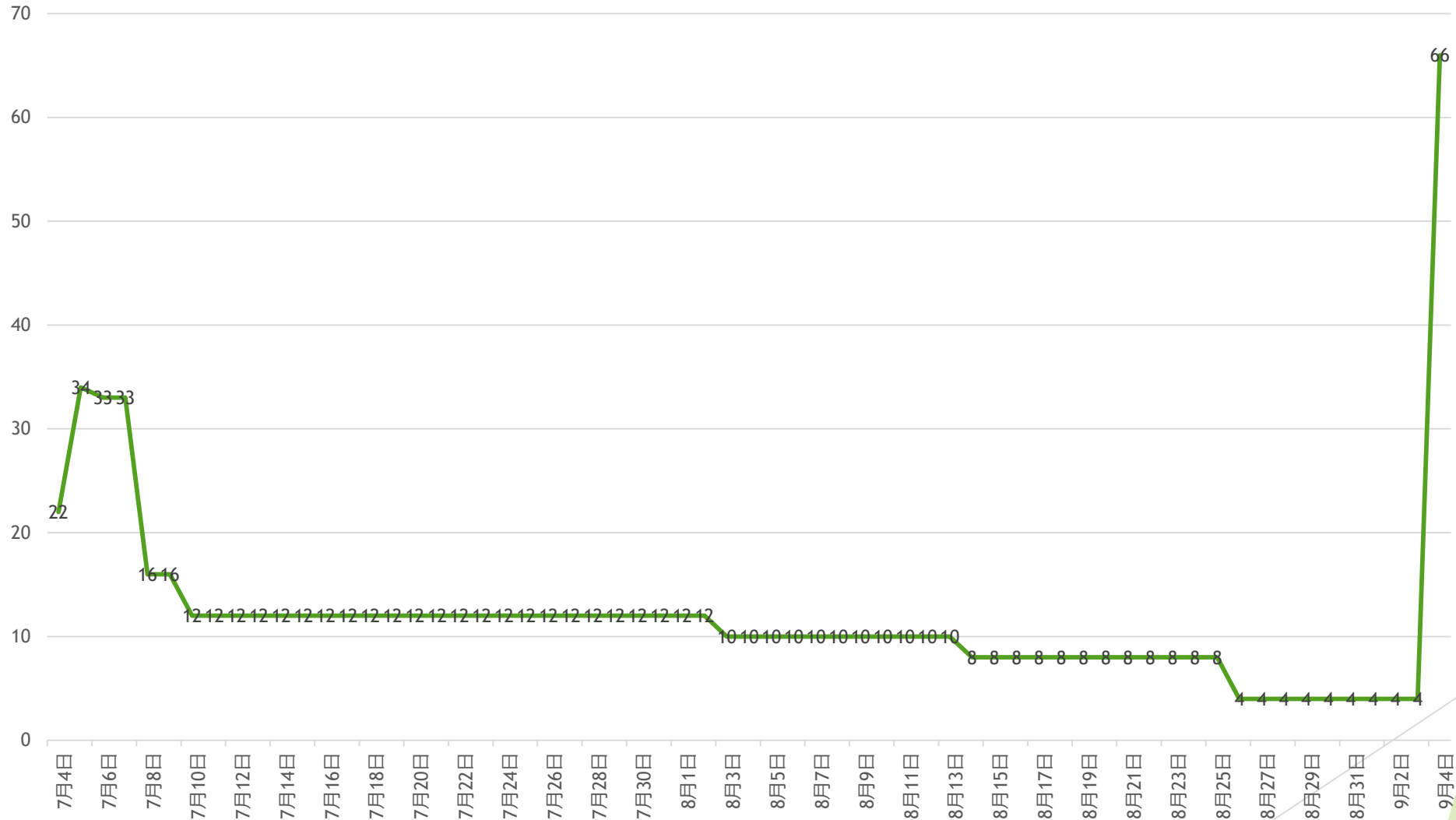
本来は頼りたかったところだが、自分の居住区の対応等で、身動きが取れなかった。

ただ、情報収集や物資輸送では大きな協力があつた。

地域の要職に就く人物で構成された団体の脆さが露呈した。

さんがうら避難所 避難者数

避難者推移表 令和2年 7/4~9/4 (単位:人)



三ヶ浦地域全住民の安否確認 自衛隊・熊本県警・消防団と連携して人員掌握に携わる



自衛隊・県警察・地元消防団が協力し、全体の把握とライフライン復旧へ向けて活動。



孤立状態の時には自衛隊ヘリで、物資輸送、医療施設へ搬送が行われた。

避難状況 (7/13 朝)									
大久保	7	24	28	0	0	0	24	21	45
野良	11	20	20	0	0	11	22	17	50
ウノナ	20	22	47	13	0	18	40	27	85
大塚田	48	22	104	0	0	0	0	0	174
中津	5	12	17	0	0	5	14	12	29
松谷	20	18	38	0	0	0	0	0	58
宮原	12	18	30	0	0	0	0	0	40
茂田	6	11	17	0	0	6	11	10	27
遠原	10	12	22	0	0	0	0	0	32
佐口	2	8	10	0	0	2	8	12	22
中津	12	11	23	0	0	0	0	0	33
英良(町)	1	1	2	0	0	0	0	0	3

三ヶ浦地域住民の安否確認。刻一刻と変わる状況の中、地区班長と連絡を取って状況調査。(自衛隊主導)

緊急搬送、輸送についてはこちら側の情報提供により自衛隊が担当。
道路復旧、住民の安否確認を協力して行ってきた。
一日に2回、(8時・17時)、その日の活動状況を報告し情報共有してきた。
孤立集落内には、数日後に出産を控えた人や、病院への通院が必要な人、
介護が必要な高齢者もいた。

梅雨時の被災と衛生管理の難しさ



元図書室（1階避難所）の様子。
2階宿泊室も避難所へ。ライフライン復旧前は、衛生管理が課題だった。



避難所の一角に食料品や飲料水置き場を設置。コロナ対策も一時は衛生用品が不足し対応が難しかった。

課題だったこと

- コロナ禍の対応
 - ・ いかにかに三密を避けるか？
 - ・ マスク、消毒液の確保
- 衛生面について
 - ・ 避難者の体調管理
 - ・ 食品の衛生管理
 - ・ 暑い季節、着替えや入浴はどうするか？
 - ・ 体調不良者の対応（嘔吐物など）
 - ・ 女性・高齢者の生理用品
 - ・ 避難所内の掃除のタイミング
- その他
 - ・ 持病持ち、認知症等の高齢者への対応等

交通アクセスが改善され、日赤などの専門機関が到着したのは、3週間が経ったころ。
すでに一山超えて落ち着き始めている頃だった。

地域の協力・地元住民の底力



避難所運営に関して（被災を免れた人の協力）

- 被災後、無事だった住民が集まって炊き出し（～7/8まで）
- さんがうらに避難している人のために、かけ湯コーナーを制作
- 必要な水を、毎日水源地からタンクに汲み上げて配達
- 避難者の移動、送り迎え
- 野菜等、食材の提供
- その他、情報提供等



災害復旧に関して（農村ならではの力）

- 出荷直前の農産物のため、生産者が協力して林道を整備。
- 農業用水路・生活用水路の補修（個人所有の重機類を持ち出して対応）
- 被災道路の復旧（地区住民総出で対応。作業用の道具はどこの家にもあった）
- 大工・ガス・電気・水道工事の経験者が活躍

こういった地元住民の動きにより、三ヶ浦地域内の孤立状態が解消されるのが早まった。三ヶ浦～人吉市鹿目町が開通したのが7/8（しかし、危険道）大規模な崩落など時間を要するものは工事業者が入ってからであり、国道の仮復旧が終わり、アクセスが大幅に改善されるのは被災後3週間近くたってから。

尚、発電機等は農家で所持していることも多く、携帯の充電や炊飯など、しばらくの間は対応できていた。

支援の輪の広がり

RQ九州をはじめ、多くの仲間の声掛けによって、たくさんの方が復旧活動に来ていただいたり、物資を届けたりしていただきました。

また、そこから新しいご縁も生まれ、支援の輪がさらに広がっていきました。

地元の同級生が身を粉にして動いてくれたことで、人吉球磨圏内でも支援の輪が広がっていったことも大きかったです。

ボラセンを介せず、直接お話しすることで被災地の現状と、今現地で必要なことは何かをお伝えすることができました。被災直後から地元の声が届けることができたのは、地域づくりの仲間の皆さんのおかげだと本当に感謝しています。



令和3年1月、美里町にて

被災直後から、球磨村復興に従事してくれたRQ九州号を車検のタイミングで返却。

被災当初は、災害ゴミの搬出、支援物資の配達等、車や家が被災した人の足となって活躍してきました。業者が入り始め、落ち着き始めた後は、球磨村各地域の復興活動で活躍し、業者の手の入りにくい作業等で活躍しました。

水没した渡・山口地区ではほとんどの人がこの車を使用し、感謝の言葉をいただいています。

被災から1か月後、移動販売を再開。生活支援・コミュニティ支援へ。



さんがうらの支援物資置き場に来れない人（車がない人や独居老人）など、本当に支援が必要な人が多くいたため、8月5日（水）、被災して1か月後に移動販売（見守り活動）を再開。三ヶ浦地域全集落を対象にするため、これまで水曜日のみの移動販売を、水曜日・木曜日の2日間に拡大した。また、支援物資は軽トラに積み込み、配布を行った。

→現在も継続中。物資受け入れ配布は球磨村が停止した後も、令和2年11月まで独自に活動した。

その際に、地元住民の困りごとやニーズを調査し、次回の支援物資配布時に届けたり、行政に地域住民の要望を届ける活動を行ってきた。

また、地域の人が交流する場作りや明るくなるような取り組みを行ってきた。

→移動販売ポイントカード・地域住民でウォーキングイベントなど。

住民の要望に関しては、さんがうらで対応できないもの以外を逐次報告。難しい要望も多かったが、住民の声をリアルタイムで行政に届けるよう努めてきた。

補足：避難所運営を終えて思うこと

- 山間部の大災害は厳しい。アクセス断絶は致命的
- 自然学校や体験型廃校利用施設は、避難所に適している
- 転送携帯が非常に役に立った。通信手段の確保は必須
- アマチュア無線免許を取得しておけば良かった
- 仲間とのネットワークが大きな支援の輪を呼ぶことを実感
- 地域とのつながりの強さは防災力のバロメーター
- 公助や共助よりも、まずは自助の大切さを痛感
- 地域防災組織や消防団の役は適切だったか？

**私は自分の居住区では何一つできなかった
訓練も何も意味をなさなかった
誰も助けることができなかった**

●さんがうら施設長と消防団の役員として

**被災当時、私は消防団（地域分団）の部長だった。
本来、現場で指揮を執らなくてはならなかった立場。
しかも、担当地域は最大被災地の一つ、渡地区。
小川地区（千寿園）、茶屋地区、舟戸地区、椎屋地区だった。
私は、14名が犠牲になったこの場所で何一つできなかった。
誰も助けることができなかった。**

**皆さんももう一度、自分の身を振り返ってみてください。
いろんな役を引き受けていませんか？
それは大災害時に両立できるものですか？**

「さんがうら」の特徴を活かして 新生・球磨村へ

令和2年1月、「さんがうら」指定管理者応募時の事業計画より一覧を抜粋。
「さんがうら」の両輪（内と外の取り組み）を回して持続可能な社会へ。

● 生業としての農林業を守り育て、持続可能な集落作り

1. 農作業の受委託組織化の推進
2. 農林産物オーナー制度の推進
3. 日本の棚田百選「松谷棚田」の再生
4. 農林産物の販路拡大
5. 農業後継者マッチング事業

● 高齢者が住み慣れた集落でいきいきと暮らせるむらづくり

1. 地域人材バンクの整備と地域力創造
2. 地域案内人（ランドオペレーター）の発掘と連携
3. 生活支援・買い物支援・コミュニティ支援とふれあいサロンの開設

● 都市農村交流の場、地域マネジメントの場としての拠点づくり

1. グリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムの推進
2. 地域資源の再発掘と記録収集・情報発信
3. 地域マネージャーの発掘と協働による地域課題解決
4. 団体の法人化（住民主体の参加・協働型）
5. 村内の他施設の特徴を活かした棲み分けと連携

● 関係人口の受け皿と移住定住対策の取り組み

1. 球磨村型クラインガルテンの整備
2. 球磨村への中・長期ボランティアの受け入れ
3. 関係人口の入り口としての取り組み

ご清聴誠にありがとうございました。